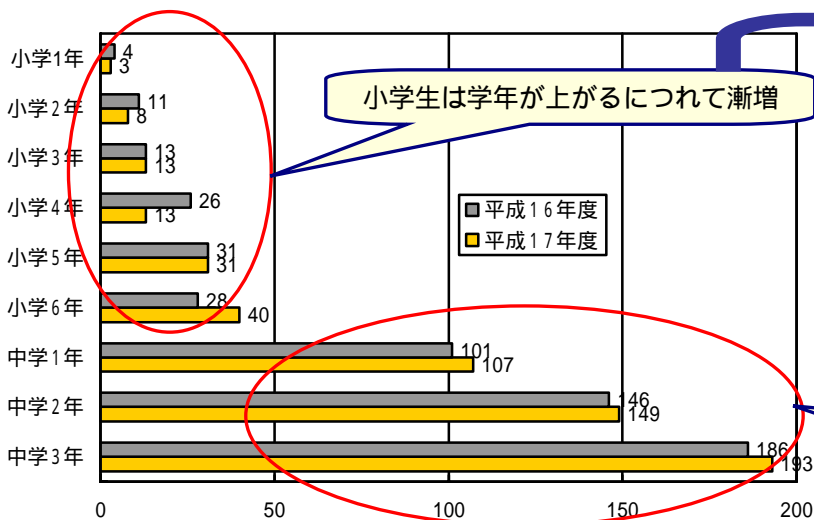


# 中学校での不登校の増加に歯止めを！

平成17年度「本市 不登校に関する実態調査」結果報告(2)

## 本市における学年別不登校数



小学生は学年が上がるにつれて漸増

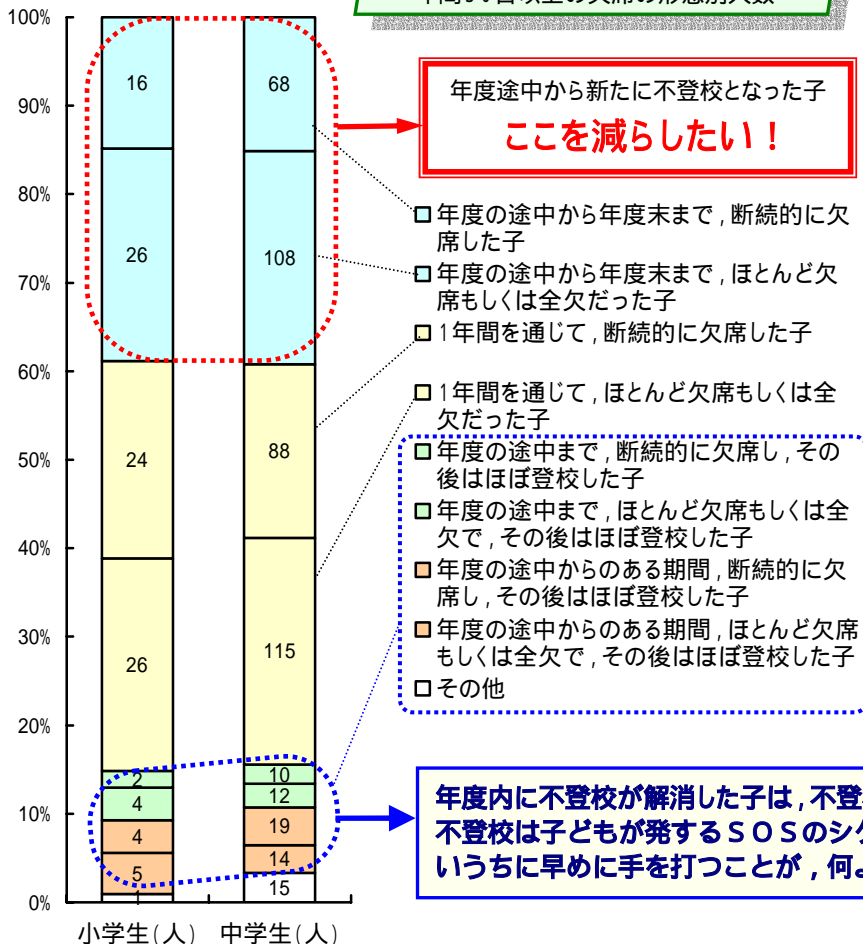
中学校生活を見据えた、  
予防的な対策が必要！

・小学生、とくにギャングエイジといわれる中学年から高学年にかけての時期に、まさに**ギャングエイジと呼ぶにふさわしい生活体験を重ねることが**、中学校生活や中学生の仲間関係にうまく乗っていきけるための「心の体力」を養うことになります。

中学生になると大幅に増加

## どんな休み方をしているか？

### 年間30日以上欠席の形態別人数



年度途中から新たに不登校となった子  
**ここを減らしたい！**

年度内に不登校が解消した子は、不登校全体のわずか8分の1(70人)。不登校は子どもが発するSOSのシグナル。そこまで追い詰められないうちに早めに手を打つことが、何より最強の不登校対策なのです。

学校に来なくなることは重大な事態であることを、改めて重く受け止めて！

### ここが落とし穴

・クラスの中に、他に生徒指導面で手のかかる子がいると、対応がつい後手になりがち  
・欠席した子が問題行動の目立つ子の場合「休んでくれた方がかえっていい」といった思いに教師自身が駆られることも

**これこそ“もったいない型”の不登校の典型。こうした不登校を生まないために**

担任や学年内だけでの対応に留めず、スクールカウンセラー等を交えた学校体制での話し合いを早期に行い、客観的に状況を捉えた上で、対応を協議することが大切です。